

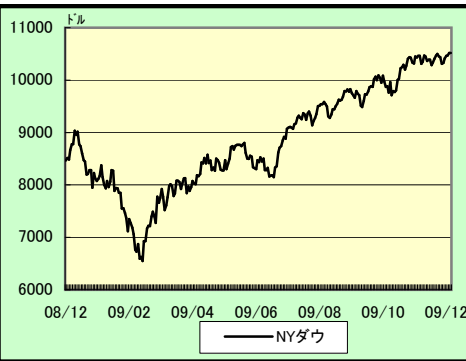


1. 日米株式と円/ドルの推移(チャートは過去1年)

<日本株>

<米国株>

<円/ドル>



	単位	2008/12/31	2009/11/30	2009/12/25	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	8,859.56	9,345.55	10,494.71	18,300.39	2007/2/26	6,994.90	2008/10/28
NYダウ	ドル	8,776.39	10,344.84	10,520.10	14,198.10	2007/10/11	6,469.95	2009/3/6
円/ドル	円	90.64	86.41	91.30	124.13	2007/6/22	84.83	2009/11/27

当社が信頼できると判断した情報に基づき当社作成

2. 日本株市場の振り返り

先週の振り返り

<続伸、クリスマスラリーを迎える>

先週の日本株市場は、週間ベースで日経平均が+352.66円(+3.48%)、TOPIXは+15.80ポイント(+1.77%)とクリスマスラリーを迎える展開となり、日経平均はこれで4週連続の上昇となりました。また、月間ベースでも日経平均が+1,149.16円(+12.30%)、TOPIXが+69.45ポイント(+8.27%)と大幅な上昇となり、今月は8月以来4ヶ月振りにプラスのリターンで終わる可能性が高まりました。加えて、年間ベースでも3年振りにプラスのリターンで終わりそうな気配です。業種別(東証33業種)にみると週間ベースでは、鉱業、ガラス・土石製品、その他金融業など26業種が上昇する一方、空運業、銀行業、陸運業など7業種が下落しました。先々週末に日銀がデフレを許容しない姿勢を強く打ち出したことや政府が円高に対して強い懸念をみせたことを受けて、為替介入に対する警戒感が高まったことなどから、先週のドル円は一時91円台まで円安が進み展開となりました。また、NYダウやナスダックなど米国株市場が経済指標の改善等を背景に年初来高値を更新する展開となったことも追い風となり、日本株市場は週を通じて堅調に推移しました。また、指導力の不足といった理由等から鳩山政権に対する支持率は低下基調にあるものの、平成22年度の税制改正大綱や予算案をなんとか年内に取り纏めることができたことで市場の不安材料が一つ取り除かれたとみています。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国	項目		前回
12月28日	Mon	日本	鉱工業生産(前月比)	11月	0.5%
12月29日	Tue	米国	S&P/ケース・シラー住宅価格指数(前月比)	10月	0.33%
12月29日	Tue	米国	同上(前年比)	10月	-9.36%
12月29日	Tue	米国	消費者信頼感指数	12月	49.5
12月30日	Wed	日本	大納会		
12月30日	Wed	米国	シカゴ購買部協会景況指数	12月	56.1
1月1日	Fri	米国	祝日(ニュー・イヤーズ・デイ)		

当社が信頼できると判断した情報に基づき当社作成

4. 日本株市場の見通し

今週の見通し

<薄商いの中、底堅い展開を想定>

今週の日本株市場は、年末で参加者が減少し薄商いが予想される中、90~91円台で落ち着いている為替を背景に、底堅い展開を想定しています。特にクリスマス明けの米国市場が強含めば、年初来高値を更新する可能性もあると考えています。ただ今年より終日取引となった大納会では、ポジション調整でやや売られることも想定されます。指標では、28日に発表される鉱工業生産指数、米国では29日に発表されるS&P/ケース・シラー住宅価格指数や消費者信頼感指数に注目しています。

本資料は、朝日ライフ アセットマネジメント(以下、当社といいます)が、投資の参考となる情報提供を目的として作成したもので、特定の商品に対する投資勧誘を意図するものではありません。本資料は当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。資料中に記載されたグラフ、数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。また、コメントについては作成日時点での判断であり、将来予告なく変わることがあります。最終的な投資決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

